

事例15

< 事例概要 >

出血

- ① 20 歳代、混合性結合組織病、間質性肺炎、中等度肺高血圧症の患者。
 - ② 栄養管理のため、中心静脈カテーテルを留置予定。
 - ③ BMI 21.6 kg/m²。下肢浮腫、胸水、腹水を認め脱水状態。血管虚脱あり超音波で静脈の同定が困難。血小板2万台 / μℓ。抗血栓薬の使用は無。
 - ④ 右内頸静脈よりリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。血管同定に難渋し、6 回目の穿刺で逆血あり。超音波の短軸像でガイドワイヤーの位置を確認し挿入したところ激痛と、右背部に軽度の鈍痛を認めた。体位変換で疼痛が軽減したためダイレーターを5cm 程度挿入後、ダイレーターを抜去した際、静脈血様出血が多量にあり圧迫止血。
- カテーテルは10cm しか挿入できず、動脈の誤留置を疑い抜去。直後に呼吸困難感を訴え、血圧低下、意識消失、心肺停止。X線で右胸腔の大量胸水と縦隔の左方偏位を認め、胸腔ドレーンを挿入し血性胸水約1000 mℓ 排出。抜去から約3 時間半後に死亡。
- ⑤ 死因は、血管損傷（部位不明）による右胸腔内出血。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。